

科目名	ソフトウェア開発特論		英文表記	Advanced Software Engineering		2017/3/30	
科目コード	6310						
教員名：正木 忠勝						作成	
技術職員名：							
対象学科／専攻コース			学年	必・選	履修・学修	単位数	授業形態
創造システム工学専攻・情報工学コース			専2	必	学修	2単位	講義
科目目標【MCC目標】 【V-D-4】ソフトウェアエンジニアリング手法について、代表的な方法を説明できる							
総合評価 レポート(20%)と輪講の担当部分のプレゼン(80%)で評価する							
科目達成度目標	目標割合	科目達成度目標	達成度目標の評価方法	ルーブリック			
				理想的な到達レベル(優)	標準的な到達レベル(良)	最低限必要な到達レベル(可)	セルフチェック
	80%	① ソフトウェアエンジニアリング手法の基礎知識を身につける(A-3)	レポートで評価する(20%)	ソフトウェアエンジニアリング手法を長所短所を含めて詳細に説明できる	ソフトウェアエンジニアリング手法を詳細に説明できる	ソフトウェアエンジニアリング手法を説明できる	
	20%	② ソフトウェアエンジニアリングにおける特定の工程を深く理解する(A-3)	担当した輪講部分のプレゼン内容で評価する(80%)	担当部分の周辺技術を含めて説明できる	担当部分を十分理解し、わかりやすく説明できる	担当部分の内容の解説が出来る	
本科・専攻科教育目標		1	2	3	4	<専攻科教育目標> (3) 専門的基礎知識を理解し、自ら学ぶことのできる人材を育成する	
		○		◎			
評価方法と評価項目および関連目標に対する評価割合							
評価項目		目標との関連	定期試験	小テスト	レポート	その他(演習課題・発表・実技・成果物)	総合評価
基礎的理解			0	0	100	0	100
応用力(実践・専門・融合)					45		45
社会性(プレゼン・コミュニケーション・PBL)					25		25
主体的・継続的学修意欲					10		10
					20		20
授業概要、方針、履修上の注意		比較的規模の大きなソフトウェアの開発手法について、ウォーターフォールモデルをベースについて、各開発プロセス毎に詳細に学ぶ。 講義は教科書の輪講によって行い、講義の回毎に担当する学生がPowerPointによるプレゼンにより教科書の担当章の解説を行う。					
教科書・教材		「ずっと受けたかったソフトウェアエンジニアリングの新人研修」宇治則孝、翔泳社					

授 業 計 画					
週	授 業 項 目	時間	授 業 内 容	自学自習 (予習・復習) 内容	セル フ チエッ ク
1		2			
2		2			
3		2			
4		2			
5		2			
6		2			
7		2			
8	前期中間試験(行事予定で週変更可)	2			
9		2			
10		2			
11		2			
12		2			
13		2			
14		2			
15		2			
期末	期末試験	[2]			
16	ガイダンス	2	本講義の内容と評価方法の解説		
17	ソフトウェア開発の概要	2	代表的なソフトウェア開発手法を学ぶ		
18	基礎知識	2	ソフトウェアエンジニアリングの用語や基礎知識を学ぶ		
19	要求定義と要件定義	2	要求定義と要件定義について学ぶ		
20	システム提案	2	システム提案書の内容と作成上の注意点を学ぶ		
21	外部設計	2	外部設計書の内容と作成上の注意点を学ぶ		
22	内部設計	2	内部設計書の内容と作成上の注意点を学ぶ		
23	製造	2	コーディング規約と単体テストについて学ぶ		
24	テスト	2	結合テスト、総合テストと品質保証について学ぶ		
25	受入テスト	2	受入テストの位置づけと実施方法について学ぶ		
26	プロジェクトマネジメント	2	PMBOKについて学ぶ		
27	品質管理	2	品質管理に必要な外リクスについて学ぶ		
28	セキュリティ	2	開発におけるセキュリティの必要性を学ぶ		
29	プロジェクト完了報告	2	完了報告書の内容と目的について学ぶ		
30	まとめ	2	ソフトウェアエンジニアリングについてのまとめ		
期末	期末試験	[2]			
学習時間合計		60	実時間	45	
自学自習(予習・復習)内容(学修単位における自学自習時間の保証)				標準的の所用時間	
①	輪講のための準備とプレゼン資料作成			各4時間×5回	
②					
③					
備考欄					
(各科目個別記述) ・ この科目の主たる関連科目はOSとコンパイラ(本4年)、コンピュータアーキテクチャ(本3年) (モデルコアカリキュラム) ・ 対応するモデルコアカリキュラム(MCC)の学習到達目標、学習内容およびその到達目標を【】内の記号・番号で示す。 (学位審査基準の要件による分類・適用) A群 計算機システムに関する科目					

学習時間は、実時間ではなく単位時間で記入する。(45分=1、90分=2)